

令和 6 年度 県立小瀬高等学校自己評価表

目指す学校像	●共有した教育理念 生徒を主語にした教育 伴走者（支援者）として関わり 安心安全な場で行う教育 小ささを強みに 地域と共に歩む教育 地域と学校が Win－Win の協働 ◆目指す生徒像 ・自分を大切に人（自分を肯定的に捉える、自己調整する、自分の幸せに向かう） ・他者とつながる人（自分の考えを伝える、相手の話を受け止める、他者と協働する） ・地域・社会に関わる人（社会課題に関する知識・理解、見通しを立てて行動する、挑戦し振り返る）		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
・3つのコース制により、生徒の興味及び進路希望に応じた教科指導を行うことができた。更に充実させるためには、コースにかかわらず基礎学力の向上を図る必要がある。 ・進路支援においては、1年次から計画的な指導を行った結果、就職・進学とも全員が希望する進路を実現することができた。今年度も生徒一人一人に寄り添いながら、それぞれが進路を決定できるよう支援していく。 ・生徒支援においては、全体的に落ち着いた生活ができています。スマートフォンなどの通信機器の適切な使い方講習によるSNSトラブルの防止や、バイク通学者等への交通安全教育を徹底し交通事故防止に努めている。また、特別な支援を要する生徒への組織的なサポートを行っていきたい。 ・特別活動においては、生徒の主体的な活動を重視し、生徒会を中心に行事等を改善実施できた。クラスマッチや文化祭では生徒会や実行委員会が中心となり運営することができた。学校の活性化を図るため、行事の充実	教科指導・学習指導 学習指導の工夫と充実 体験的・探究的な学びの充実 小規模化に対応した教育活動の充実 ICT活用の推進	・日々の授業において、生徒の観点別学習状況を評価し、その結果を生徒の学習改善、教員の指導改善につなげ、学習指導の質の向上を図る。 ・「総合的な探究の時間」を中心に各教科等で体験的な学び・探究的な学びを多く取り入れて、生徒の主体的な学びを支援する。 ・生徒が各種技能審査等に挑戦し、合格できるように指導する。 ・タブレットや電子黒板の活用を推進するとともに、オンラインを含め授業の進め方など、ICTの活用を研究し、授業力の向上を図る。	4
	授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の学校評価平均値3.5以上を目指す。	4
	進路支援 希望進路の実現 体験的な学習の充実	・多様な生徒に応じた支援をすることで、多様な生徒の進路希望を100%実現させる。 ・キャンパス見学、企業見学、インターンシップなどの体験的な学習を通して、進学や就職への理解を深めながら、社会に適応できる力を育む。	4
	生徒支援 基本的生活習慣と生活態度の確立 問題行動の未然防止、早期発見と早期対応 交通事故の未然防止、交通マナーの徹底 生徒に居場所のある学校づくり 安全・安心な学校づくり	・あいさつを励行し、規範意識を醸成する。 ・成人年齢引き下げの時代にあった市民教育や主体性の育成に努める。 ・キャリア教育の視点を踏まえた生徒指導の推進を図る。 ・生徒支援を軸にした、柔らかな生徒指導の充実と対応に努める。 ・SC、SSWとの連携の充実、図書館分室の活用を図る。	5

別紙様式 2 (高)

や部活動加入を促したい。 ・昨年度の連携中学校からの入学者は 13 人であり、前年度より減少しているため、さらなる連携を推進していくとともに、より魅力ある学校作りを促進し、本校への志願者を増やすことが急務である。 ・ICT の活用については、全学年タブレットを入学時に購入し所有しているため、実践的な研究を進め、効果的な活用についてさらに検討し、電子黒板やタブレット等の活用を図りたい。		特別活動 生徒の主体性の育成 生徒の社会参画意識の醸成 探究的な学びの推進	・生徒会や部活動の自主的な運営を支援し、主体的に生きる力を育成及び社会参画意識の醸成を図る。 ・社会で必要とされるスキルの育成やキャリア教育の視点を踏まえて、探究的な学びを推進する。 ・部活加入率や継続率を向上させ、部活動をより活性化させる。		4		
		連携型中高一貫教育 連携型中高一貫教育の推進	・明峰中学校との継続的・計画的な中高連携を模索し、地域の子どもを育み、地域と共にある学校づくりを推進する。 ・情報発信・広報を積極的かつ効率的に行うことで、本校の認知度を高め、志願者確保につなげる。		4		
		働き方改革 働き方改革の推進 業務の適正化と組織内部の効率性の向上	・週一回実施の授業後下校・定時退勤の実施と共に、各自が業務の質を保ちつつ、効率化の工夫の継続を図る。 ・業務の適正化を図り、組織内の連携を機能させ、効率性・生産性を高め、カリキュラム・マネジメントの充実を図る。		4		
三つの方針		具体的目標			評価	次年度(学期)への主な課題	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 地域活動のリーダーとして地域に貢献し社会で活躍できる人財の育成	4	4	キャリア教育を意識した特別活動及び探求学習において、生徒の主体的な取り組みを強化する。		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 人間関係能力の育成を図るとともに、コース選択を取り入れた教育活動による幅広い進路希望の実現	4		福祉コースのデュアルシステムによる介護現場実習、特進コースの進学対応を強化する。		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 人とのつながりや地域の絆を大切にしながら、主体的に生きようとする生徒	4		地域の中学校を中心に市教育委員会、地元の産業との連携強化を図る。		
評価項目	具体的目標	具体的方策			評価	次年度（学期）への主な課題	
国 語	・基礎学力の向上	・授業の工夫改善及び定期的に漢字テストを実施し、生徒が漢字や熟語への興味関心を高め、日常生活で適切に用いることができるよう支援する。 ・教科の特性に従い、「読む・書く・聞く・話す」の4分野を指導する。特にコメント力・応答力・聞き取る力が向上するように質疑応答やリスニングなどを取り入れた授業を展開する。			4	4	・実践的な文章を書く機会を増やす。 ・質疑応答の仕方を工夫する。

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式 2 (高)

	・情報選択能力と問題解決能力の向上	・生徒が主体的に学び合えるよう、ICT を活用し、プレゼンテーションの機会を設け、作品の構成や情報の編集を通して情報選択能力や問題解決能力の向上を図る。	4		・生徒の情報選択能力、問題解決能力の伸張のための手立てを考える。 ・ティーム・ティーチングでの工夫や改善点の共有を図る。
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、ティームティーチングを行い、きめ細かい指導を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 3.5 以上を目指す。	4		
地歴・公民	・分かりやすい授業の展開	・生徒に興味・関心を抱かせるため、プリントや画像・映像・新聞・ICT (タブレット等) を多く活用しながら授業を展開する。	5	5	・教科書以外にも日常的なニュースを取り入れることで、現代における社会の諸課題を考える視点を身に付けることが課題である。
	・基礎・基本・一般常識の育成	・身近なニュースや社会問題、社会人として必要とされる知識を育成し、社会人としての資質を身につけさせる。主権者教育にも力を入れていく。	4		
	・メディア・リテラシーの育成	・問題の捉え方や解答を多くの生徒と共有させ、多様な考え方を理解させる。 ・ICT や視聴覚教材を通し、考えることの面白さを伝え、考察する態度や能力を養う。	4		
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 3.5 以上を目指す。	4		
数 学	・基礎的な知識・技能の習得	・基礎的な計算力を身に付けさせるために、年間 4 回の小テストの実施、その前後でプリント学習や追試験での指導をする。 ・多くの問題を解かせ、基本事項を確実に習得する機会を十分に与える。	4	4	・小・中学校レベルの数学的知識や、基本的な計算問題を解く力を習得させる。 ・既習事項を活用して問題解決する力を育成する。 ・ICT を効果的に取り入れるためのさらなる工夫を検討し、授業改善に繋げる。
	・思考力・表現力の育成	・用語の定義を丁寧に説明する。定理や公式の証明を仮定から結論に至るまで示しながら、論理の重要性や良さに気づけるよう工夫する。	4		
	・数学に対する関心や態度の醸成	・問題の捉え方や解答を多くの生徒と共有させ、多様な考え方を理解させる。 ・ICT 教材等を通し、考えることの面白さを伝え、考察する態度や能力を養う。	4		
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 3.5 以上を目指す。	4		
理 科	・理科への関心の深化と、科学的思考力の養成	・身近な事物や現象を科学的に捉えられるように、日常生活に関する現象や物質などを取り上げ、ICT や視聴覚教材の効果的な活用を工夫する。 ・実験や観察を多く取り入れ、結果の予測をさせたり、結果を考察させたりすることで科学的な思考力を伸ばす。	4	4	・科学的に思考するための基礎学力を定着させる。 ・ICT や視聴覚教材を効果的に活用する。 ・生徒の授業満足度が向上するよう授業改善を継続
	・基礎学力の定着	・小テストや課題、レポート等の指導を通して、一時的な知識の定着だけでなく、継続的な理解の定着を図る。	4		

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式 2 (高)

	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 3.5 以上を目指す。	4		する。
保健体育	・見方や考え方を働かせ、運動の特性や社会生活における健康・安全についての知識及び技能の育成	・運動や健康に関する適正や自己の適性等に応じて、「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方の中から、知識や技能を身につける。	5	5	・評価規準の見直しを図る。 ・運動が苦手な生徒や配慮が必要な生徒への支援を行う。 ・タブレットを活用した場面の設定を行う。
	・運動や健康について、自己や社会の課題を発見し、他者に伝える力を養う。	・各領域特有の動きや技、自他の課題改善のポイントを発見し、伝える力を身につけるために、話し合い活動やタブレット等を活用していく。	4		
	・健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	・体育では、体力向上のための運動量を確保し、補助運動等の活動から継続的に運動を行う習慣を身につけ、心身の健康の保持増進を図る。 ・保健では、自らの健康管理を適切に管理・改善していくための知識技能を身に付け、実生活に役立てていく。	5		
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 3.5 以上を目指す。	4		
芸術	・芸術を愛好する心情の育成と豊かな情操の醸成	・音楽については、音楽の基礎となる知識や技術などを習得させ、実際に活用できる能力を身に付けさせる。	4	4	・各科目について、基礎知識や技能を身に付けるための工夫をする。 ・表現力や想像力等を意識させて幅広い創作活動を継続していく。
		・美術については、課題を多面的に設定して、幅広く創作活動を体験することで、感じる力、工夫する力、表現する力を養う。	4		
		・書道については、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。	4		
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 3.5 以上を目指す。	4		
外国語	・基礎学力の定着	・英語小テストを効果的に実施し、基礎学力の定着を図る。	4	4	・英検合格につながる学習支援を行う。 ・基礎学力の差を考慮した上で、ICTなどを効果的に
	・英語検定受験の奨励と支援	・英語検定試験の受験を勧め、その指導を通じて英語力の向上を図る。	5		

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式 2 (高)

	・コミュニケーション能力の向上	・英語で表現することを楽しみ、コミュニケーション力の向上を図る。	5		活用し、学力の定着を図る。
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 3.5 以上を目指す。	4		
家 庭	・家庭科目に対する生徒の意欲・関心の増進	・生活に沿った題材、事例を取り上げ、ICT や視聴覚教材を効果的に活用する。 ・生徒の実態に合った教材選択に努め、興味・関心をもって学習できるようにする。	5	4	・生徒どうしの学び合い、対話的な授業、ICT 活用等を通して、課題に対する深い学びに向かう仕掛けをしていく。
	・基礎学力の定着	・課題等を定期的に提出させ、基礎学力の定着を図る。 ・実験・実習等を積極的に取り入れ、科学的・体験的に学び、基礎知識と技能を身に付けさせる。	4		
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 3.5 以上を目指す。	4		
情 報	・情報社会と人との関わり の理解	・効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について、理解を深め技能を習得すると共に、情報社会と人の関わりについて理解を深める。	4	4	・情報モラルの大切さを意識させて情報機器を利用させる。 ・各種検定試験の合格率をあげることを目指す。
	・問題の発見・解決と情報、 情報技術の活用	・事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切に効果的に活用する力を養う。	4		
	・情報社会に主体的に参画	・情報と情報技術を適切に活用し、情報社会に主体的に参画する態度を養う。	4		
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 3.5 以上を目指す。	4		
商 業	・商業科目に対する生徒の 意欲・関心の高揚	・ビジネスの諸活動に必要な文書の作成等を通し、パソコンに対する知識や表現能力を高める。 ・文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等を使い、一人一人の技量に応じた技術の習得を図る。	4	4	・ビジネスに関する知識や検定で得た技術を実社会で活かせるように、知識と技術を更に高める指導をしていく。
	・検定試験の合格率アップ	・情報処理検定やビジネス文書検定、電卓検定等において、早い時期から意識付けをして合格を目指す。	4		
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値 3.5 以上を目指す。	4		

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式 2 (高)

福 祉	・福祉に関する興味・関心の向上	・福祉は介護分野だけではないことに気付かせ、幅広く学ばせるとともに、県や市の資料を活用し、地域についても興味・関心をもって学習に取り組めるようにする。	5	4	・今年度も市の福祉制度や、福祉制度を調べたり、市の出前講座を活用し広く知識の普及を図った。次年度も同様に考えている。 ・単元ごとの小テストを実施したり、定期テストを実施し知識の定着を図ると同時に欠席者には、補講を実施する。次年度も同様に行う。 ・実習をとおして、学校で学んだことを確認し内容を深める。 ・実習記録や介護記録が進んでいるため、負担軽減のため積極的に取り組んでいる。
	・福祉に関する基本的知識や技術の習得	・単元ごとに章末問題や小テストを実施し、知識や技術の習得を確認する。 ・授業欠席時や知識・技術が合格基準に達しない場合は補講を実施する。	4		
	・職業教育として質の高い福の担い手を養成	・デュアルシステムの課題を検討し、整備していく。また、より専門的な学習や現場実習を通し、専門職種としての意識を高める。 ・現場及び実生活で活用できるよう、専門スキルを身に付けさせると共に、人との関わりを通し、豊かな心や人間性、社会性を育てる。	4		
	・授業改善	・生徒の学びの進化へ向け、ICTを活用し各授業担当者の授業力の向上を目指す。 ・生徒による授業満足度の平均値3.5以上を目指す。	5		
教 務	・学習指導の充実	・毎回の授業で生徒の観点別学習状況を評価し、その結果を生徒の学習の改善、教員の指導の改善につなげ、学習指導の質の向上を図る。 ・各種技能審査の受検を促し、合格に向けて支援する。 ・教員間の相互研修を促進し、体験的・探究的な学びを多く取り入れるなど生徒が自ら学ぼうとする指導方法の工夫と改善を図る。	4	4	・学習指導に関する教員間の相互研修は個別に行われているが、授業改善に向けての全体研修の工夫と計画が課題である。 ・ICT環境整備として、全教室へのWi-Fi設置を目指す。 ・小瀬高校の魅力が伝わる情報発信の工夫と改善を行う。 ・参加しやすく持続可能なPTA活動の工夫を検討する。
	・ICT環境の整備	・ICTを活用した授業実践のための機器・教材・必要物品の充実・補充を行い、学習環境の充実に努める。 ・ネットワーク、周辺機器、校務支援システムを管理し、利用環境を整備する。	4		
	・地域への情報発信と広報活動の充実	・学校案内、学校ポスター、中学生対象学校説明会、学校だより、ホームページ等を通じて学校の特色や活動の積極的な情報発信に努める。	3		
	・PTA・後援会活動の充実化	・各行事の内容を充実させると共に、案内を迅速に行い、参加しやすいような働きかけをする。 ・保護者や後援会組織との連携を密にし、学校行事等において協力し合える体制をつくる。	4		

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式 2 (高)

生徒支援	・ 基本的な生活習慣と生活態度の確立	・ 挨拶の励行やスマホ等の使い方など規範意識の向上を図る。 ・ SSWやSCを活用し、支援を軸とした生徒指導の充実を図る。	5	5	・ 管理職と連携した早期対応を進める。 ・ 原付バイク排出規制に伴う規程の見直しを行う。
	・ 問題行動の未然防止、早期発見と早期対応	・ いじめ調査アンケートや校舎内外の巡回指導等を実施し、問題行動の未然防止と早期発見に努める。 ・ ホームルームや講演会等を通して、スマホやネットの安全に正しく利用できるよう指導する。	5		
	・ 交通事故の未然防止と交通マナーの徹底	・ 定期的にバイク点検や登校指導を行い、安全に対する意識の向上と事故の未然防止を図る。 ・ 道路交通法の遵守・徹底を図る。	5		
	・ 校内環境の整備	・ 清掃を丁寧に行うことにより、校内の環境美化を図る。 ・ 安全点検を行い、修繕が必要な箇所は迅速に対処することで、安全管理の徹底を図る。	5	5	・ カーテンやモップ等交換時期や方法の見直しを行う。
	・ 生徒の健康観や安全能力を育成	・ 保健関係資料等を活用し、定期的に心身の健康の保持増進や感染症予防等の情報発信を行う。 ・ 様々な災害を意識した避難訓練を地域と連携して実施することで、安全能力の育成を図る。	5		
進路支援	・ 基礎学力の向上と学習の習慣化	・ 基礎力診断テストを活用しながら、主体的に学習に取り組む姿勢を身につけ、基礎学力の定着を図る。 ・ 模擬試験を活用し適正な進路選択をする。資格試験を意欲的に取り入れスキルを上げる。	4	4	・ 基礎力診断テストについて、実施後に生徒各自が結果を振り返り、復習ドリルにも取り組ませる。 ・ 各教科担当教員間で、受験に関する情報共有を図り、生徒の学習支援、進路支援に生かす。
	・ 進路希望の実現	・ 個別指導・進路相談を通して、それぞれの生徒に合った進路を実現させる。 ・ 公務員試験対策の研究、国公立大進学支援の研究を行い、指導に生かす。 ・ 企業見学やインターンシップなどの体験的な学習を行う。また、オープンキャンパスへの積極的な参加を促す。	4		
	・ 早期離職の防止対策	・ 生徒や保護者に対し、適切な情報や資料を提供するとともに、職員間で進路情報を共有する。 ・ 「進路のてびき」の発行や外部機関紙の提供をしながら、個々の生徒に応じた指導を行う ・ 応募前職場見学を複数実施し、生徒に適した職場への就職を斡旋する。	5		

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式 2 (高)

特別活動	・部活動の活性化	・部加入率と継続率を高めるため、教員同士が協力し部活動の指導にあたる。 ・校内放送や本校のホームページを有効に活用し、活動の様子を校内外に周知する。	4	4	・部活動への積極的加入と活動継続のための工夫を行う。 ・生徒会による自主的な活動の支援と学校行事の工夫を行う。 ・総合的な探究の時間における地域や他校との連携と、活動全般を通してのキャリア意識の醸成を図る。
	・学校行事の充実	・既存の方法にとらわれず、全校生徒が主体的・意欲的に取り組める行事運営を工夫する。 ・それぞれの生徒が活躍できる機会を多様に設ける。	5		
	・生徒会活動の活性化	・学校行事の目的を理解し、生徒が自主的に活動できるための働きかけを行う。 ・生徒が自ら挑戦できる機会を増やし、リーダーとしての資質を高める。	5		
	・総合的な探究の時間の充実	・実施の目的を生徒と共有し、活動を通して自らの成長を認識できるよう働きかける。 ・学校全体で生徒の活動支援を行うと共に、地域との連携も充実させる。	5		
	・キャリア・パスポートの活用	・生徒個々の学びや成長を整理して積み重ね、社会的・職業的自立に向けてキャリア発達を促す。	3		
第1学年	・学習の習慣化、基礎学力の向上	・授業に臨む姿勢の指導を継続的に行う。 ・基礎学力定着のため、生徒に対し計画的な学習指導を行い、成績不振者への個別指導を行う。 ・課題提出を徹底させる。	3	4	・基礎学力が定着していない生徒へ対する学習指導の工夫改善を図る。 ・課題提出の徹底を行う。 ・LHRを活用した進路指導の時間を確保する。 ・Classiを活用した生徒支援と保護者との情報交換の工夫を図る。 ・あいさつや言葉遣いなどの基本的生活習慣の確立を図る。
	・進路意識の高揚	・LHRやインターンシップ等を活用し、進路意識の啓発を行う。	4		
	・学校生活の活性化と社会性の定着	・学校行事や部活動への主体的・積極的な参加を促す。 ・自己の役割を自覚させるとともに集団における健全な人間関係を築かせ、社会性が身に付くようにする。	5		
	・ICT活用の活性化	・電子黒板やタブレット、教育用プラットフォーム（Classi）の有効活用に努める。	4		
	・働き方改革	・業務の効率化と平準化を図る。	4		
	・基本的生活習慣確立と社会性の向上	・遅刻、早退、欠席のないよう継続的な指導をする。 ・礼儀作法（言葉遣い、あいさつ、返事、服装等）をきちんとさせる。	4		
第2学年	・学習の習慣化、基礎学力の向上	・授業に臨む姿勢の指導を継続的に行い、基礎学力の向上を図る。 ・基礎学力定着のため、生徒に対し計画的な学習指導を行う。 ・提出物完成度向上及び提出徹底を図る。	4	4	・基本的生活習慣の継続的な指導をする。

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式 2 (高)

	・進路意識の高揚	・進路講話やインターンシップを通じて、進路意識の啓発を行う。	5		・早期に進路意識を高める。 ・就職試験等に向けた基礎学力を定着させる。 ・自己PRができるコミュニケーション能力を育成する。
	・学校生活の活性化と問題行動の未然防止	・学校行事や部活動への主体的・積極的な参加を促す。 ・日頃より生徒や保護者とのコミュニケーションを深め、問題行動の未然防止に努める。	4		
	・ICT活用の活性化	・電子黒板やタブレット、教育用プラットフォーム（Classi）の有効活用に努める。	4		
	・働き方改革	・業務の効率化と平準化を図る。	4		
	・基本的生活習慣確立と社会性の向上	・遅刻、早退、欠席のないよう継続的に指導する。 ・言葉遣い、礼法、服装、頭髪をきちんとさせる。	4		
第3学年	・学習の習慣化、基礎学力の向上	・授業に臨む姿勢の指導と課題提出を徹底させる。 ・SPI 問題集等を利用して継続的学習を行う。成績不振者への個別指導を行う。	4	4	・OT の時間を使って、学年全体で有意義な進路指導ができた。 ・クラスマッチ、体育祭などの学校行事に積極的に参加する事ができた。 ・Classi を活用し、生徒保護者との連絡がスムーズにできるようになった。
	・学校行事等への積極的参加	・学校行事等の目的・意味を十分理解させ、3年生のリーダーシップを発揮させる。	5		
	・適切な進路選択とその実現	・生徒・保護者との連絡・相談を密にし、適切な進路の選択を図る。 ・学年全体で進路指導にあたり、指導と事務処理に遺漏の無いようにする。	5		
	・ICTの活用	・電子黒板等 ICT 機器やタブレット、教育用プラットフォーム（Classi）を有効活用する。	5		
	・働き方改革	・業務の効率化と平準化を図る。	4		
連携型中高一貫教育	・交流事業の充実	・ふれあいキャンパス等の交流事業やスポット的授業、相互授業参観、部活動の連携を通して、生徒相互や教師と生徒の積極的な交流を推進する。	4	4	・積極的な交流の持ち方の工夫を図る。
	・地域貢献活動の充実	・連携型の中高一貫教育を通して、「地域の中で歩み、地域に貢献できる生徒」を育成する。	4		・継続的な地域人材活用や地域連携の工夫を図る。
	・中高一貫教育の推進	・少子化に対応した連携スタイルを構築し、効果的な広報を通して志願者の確保を図る。	3		・志願者確保につながる小瀬高の魅力の発信の工夫を図る。

※ 評価基準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである
1：ほとんどが不十分な達成レベルである

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである